

## アソカ講話092

テーマ「人生に何一つ無駄なものはない ④」

渡辺和子氏の著書「幸せのありか」に病の意味について次のような言葉が載せられているので紹介したい。

「病を得て、一年近く入院していた一人の卒業生が、退院後に手紙をくれました。『久しぶりに地面を踏んだ時には、心が躍りました。今の私には、当たり前が輝いて見えます』この人は、輝くもの、『宝』を以前よりも多く持つ人になりました。病んでこそ得られる賜物を思う時、私達は病気もまた、神から与えられる一つ恵みなのだと気づくのです」とある。

「病」は、私達が気づいていない日々の宝物に気づかせてくれるもの。生きるということがどれだけ奇跡的なことか、教えてくれるもの・・・病んで初めて知る普通に生きていることの幸せ・・・私達は健康でいると、既にある宝、そのありがたさを忘れ、足りないものを数え、日々不平や不満を言う生活を過ごしてしまいがちである。

今日の朝、元気で目が覚めたことをどれだけ感謝した人がいるだろう、今日この場にいられることを輝いて見ている人がどれだけいるだろう。その幸せに気づかせて頂くため「病」という薬を時として人は与えられる。人生に何一つ無駄なものはない。